

第 1 回 北大阪急行線延伸関係者会議 幹事会 指摘事項と対応

	指摘事項	対応
需要予測・収支採算性について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道の反射損益は、阪急グループのリスクを把握するためにも、出来るだけ早い時期に出してもらいたい。関係者会議のキックオフの段階で 1 つのポイントとなる。 ・ 事業スキーム等の方向性もワーキングの中で検討をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪急電鉄による、事業リスクを考慮した需要予測、事業採算性等の検討の結果を資料 1- としてとりまとめている。 ・ また、事業採択に向けた国との協議を行うにあたっての需要予測の精査及び駅整備の別事業化の検討による採算性の精査方針について、資料 1- としてとりまとめている。 ・ 地下鉄補助を想定し、整備利益の還元による事業性向上を図る検討を行い、資料 1- としてとりまとめている。
広域的効果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回以降のワーキングで広域的効果の把握等を行う予定となっているが、第 1 回ワーキングで、広域的効果の把握は検討をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的効果については、第 1 回ワーキングで検討するため、資料 1- としてとりまとめている。
関係者会議のスケジュールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者会議の検討フローは、鉄道整備の事業フローとしては良いが、一方で並行して検討する都市計画のフロー及びスケジュール感のイメージも示してもらいたい。 ・ まちづくりの事業の連動、規制緩和、低未利用地ということを加味していく事が需要に影響し、事業採算や B/C の向上に影響してくるため、鉄道整備とまちづくりの連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画のフローも含めた全体スケジュールを検討し、資料 1- としてとりまとめている。